

実務経験のある教員等による授業科目の一覧表

(省令で定める基準単位数を満たす単位分科目のみ抜粋)

学校名：学校法人三幸学園 札幌ビューティーアート専門学校

学科名：美容研究科

授業科目名	単位数
美容ベーシックB	3
合計	3

シラバス					
科目の基礎情報①					
授業形態	実技	科目名	美容ベーシック A - I		
必修選択	必修	(学則表記)	美容ベーシック A - I		
開講				単位数	時間数
年次	1 年	学科	美容研究科	2	60
使用教材	美容師国家試験 第 2 課題教材一式 改正美容師実技試験課題「衛生と技術の解説」 三幸学園オリジナル実技マニュアル 美容実習ノート		出版社	公益財団法人 理容師美容師試験研修センター	
科目の基礎情報②					
授業のねらい	美容師国家試験第 2 課題について基本姿勢、知識及び構成、 時間、仕上りのペースを理解して身に付ける。				
到達目標	美容師国家試験第 2 課題技術の基礎知識及び国家試験合格基準を目指す。				
評価基準	テスト 50％ 提出物 20％ 授業態度 30％				
認定条件	出席が総時間数の 3 分 2 以上ある者 成績評価が 2 以上の者				
関連資格	美容師免許				
関連科目	美容ベーシック B				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	鶴本 純子	実務経験		○	
実務内容	美容室で美容師として勤務				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開		
回数	単元	内容
1	オートウェーブセッティング	美容衛生（技術における衛生上の取り扱い） オールウェーブセッティング 4 H
2	オートウェーブセッティング	美容衛生（技術における衛生上の取り扱い） オールウェーブセッティング 4 H
3	オートウェーブセッティング	美容衛生（技術における衛生上の取り扱い） オールウェーブセッティング 4 H
4	オートウェーブセッティング	美容衛生（技術における衛生上の取り扱い） オールウェーブセッティング 4 H
5	オートウェーブセッティング	美容衛生（技術における衛生上の取り扱い） オールウェーブセッティング 4 H

6	オートウェーブセッティング	美容衛生（技術における衛生上の取り扱い） オールウェーブセッティング 4 H
7	オートウェーブセッティング	美容衛生（技術における衛生上の取り扱い） オールウェーブセッティング 4 H
8	オートウェーブセッティング	美容衛生（技術における衛生上の取り扱い） オールウェーブセッティング 4 H
9	オートウェーブセッティング	美容衛生（技術における衛生上の取り扱い） オールウェーブセッティング 4 H
10	オートウェーブセッティング	美容衛生（技術における衛生上の取り扱い） オールウェーブセッティング 4 H
11	オートウェーブセッティング	美容衛生（技術における衛生上の取り扱い） オールウェーブセッティング 4 H
12	オートウェーブセッティング	美容衛生（技術における衛生上の取り扱い） オールウェーブセッティング 4 H
13	オールウェーブセッティング	テスト
14	総合授業	振り返り
15	総合授業	振り返り

シラバス					
科目の基礎情報①					
授業形態	実技	科目名	美容ベーシック A - II		
必修選択	必修	(学則表記)	美容ベーシック A - II		
開講				単位数	時間数
年次	1 年	学科	美容研究科	2	60
使用教材	美容師国家試験 第 2 課題教材一式 改正美容師実技試験課題「衛生と技術の解説」 三幸学園オリジナル実技マニュアル 美容実習ノート		出版社	公益財団法人 理容師美容師試験研修センター	
科目の基礎情報②					
授業のねらい	美容師国家試験第 2 課題について基本姿勢、知識及び構成、 時間、仕上がりのペースを理解して身に付ける。				
到達目標	美容師国家試験第 2 課題技術の基礎知識及び国家試験合格基準を目指す。				
評価基準	テスト 50％ 提出物 20％ 授業態度 30％				
認定条件	出席が総時間数の 3 分 2 以上ある者 成績評価が 2 以上の者				
関連資格	美容師免許				
関連科目	美容ベーシック B				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	鶴本 純子	実務経験		○	
実務内容	美容室で美容師として勤務				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開		
回数	単元	内容
1	オートウェーブセッティング	美容衛生（技術における衛生上の取り扱い） オールウェーブセッティング 4 H
2	オートウェーブセッティング	美容衛生（技術における衛生上の取り扱い） オールウェーブセッティング 4 H
3	オートウェーブセッティング	美容衛生（技術における衛生上の取り扱い） オールウェーブセッティング 4 H
4	オートウェーブセッティング	美容衛生（技術における衛生上の取り扱い） オールウェーブセッティング 4 H
5	オートウェーブセッティング (ワインディング)	美容衛生（技術における衛生上の取り扱い） オールウェーブセッティングまたワインディング 4 H

6	オートウェーブセッティング (ワインディング)	美容衛生（技術における衛生上の取り扱い） オールウェーブセッティングまたワインディング 4 H
7	オートウェーブセッティング (ワインディング)	美容衛生（技術における衛生上の取り扱い） オールウェーブセッティングまたワインディング 4 H
8	オートウェーブセッティング (ワインディング)	美容衛生（技術における衛生上の取り扱い） オールウェーブセッティングまたワインディング 4 H
9	オートウェーブセッティング (ワインディング)	美容衛生（技術における衛生上の取り扱い） オールウェーブセッティングまたワインディング 4 H
10	オートウェーブセッティング (ワインディング)	美容衛生（技術における衛生上の取り扱い） オールウェーブセッティングまたワインディング 4 H
11	オートウェーブセッティング (ワインディング)	美容衛生（技術における衛生上の取り扱い） オールウェーブセッティングまたワインディング 4 H
12	オートウェーブセッティング (ワインディング)	美容衛生（技術における衛生上の取り扱い） オールウェーブセッティングまたワインディング 4 H
13	総合授業	総合授業
14	総合授業	振り返り
15	総合授業	振り返り

シラバス					
科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	基礎理論Ⅰ		
必修選択	必修	(学則表記)	基礎理論Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	1 年	学科	美容研究科	2	30
使用教材	美容技術理論 1 美容技術理論 2		出版社	公益財団法人 理容師美容師試験研修センター	
科目の基礎情報②					
授業のねらい	美容師国家試験筆記試験課題の「美容技術理論」の正しい知識を身につける。				
到達目標	美容師国家試験筆記試験合格基準を目指す。				
評価基準	テスト 30％ 小テスト 20％ 提出物 20％ 授業態度 30％				
認定条件	出席が総時間数の 3 分 2 以上ある者 成績評価が 2 以上の者				
関連資格	美容師国家試験				
関連科目	美容知識Ⅰ・美容知識Ⅱ・美容知識Ⅲ・美容知識Ⅳ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	山田 順子		実務経験	○	
実務内容	美容室にて美容師として勤務				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開		
回数	単元	内容
1	≪ 8 章 エステティック ≫ 1. エステティック概論 2. 皮膚の生理と構造 3. カウンセリング	・エステティックの歴史、範囲、心得、注意点・皮膚の構造・カウンセリングの目的・実際、エステティックにおけるカウンセリング
2	4. 美容におけるマツサージ理論 5. フェイシャルケア技術 6. フェイシャル及びデコルテマツサージ 7. フェイシャルパック 8. ボディケア技術 9. ボディマツサージ	・基本手技・フェイシャルの効果、方法・デコルテ、フェイシャルの手順 マッサージにおける手の動かし方と操作ポイント

3	≪ 9 章 ネイル技術 ≫ 1. ネイル技術概論 2. ネイル技術の種類 3. 爪の構造と機能 4. 爪のカット形状 5. ネイル技術と公衆衛生 6. カウンセリング	・ネイルケア、アーティフィシャルネイル、ネイルアート・爪の構造と機能・爪のカット形状・消毒方法の種類、器具の消毒手順、テーブルセッティングの一例・カウンセリング
4	7. ネイルケア 8. アーティフィシャルネイル 9. 手と足のマツサージ	・ネイルケアの道具、マニキュア・ペディキュア技術の手順・アーティフィシャルネイル技術の道具、プレパレーションの手順、ナチュラルネイルオーバーレイ技術の種類、ジェル技術の手順、シルクラップ技術の手順・グルー&フィラー技術の手順、アーティフィシャルネイルの追加とオフ・ハンドマッサージのポイント・手順、フットマッサージのポイント・手順
5	≪ 10 章 メイクアップ ≫ 1. メイクアップ概論 2. 顔の形態学的な観察 3. メイクアップと色彩 4. 皮膚の生理と構造 5. メイクアップの道具 6. スキンケア 7. ベースメイクアップ	・メイクアップ概論（サロンワーク・スタジオワーク）・顔のプロポーション、顔の骨格と筋肉、顔の立体研究、メイクアップによる立体感、顔の凹凸に基づいたブロッキング・色の三属性、マルセル表色系による色の分類、 角度配色・皮膚の生理と構造・メイクアップの道具・クレンジング、トーニング、プロテクティング・ファンデーションの目的・選び方、塗り方と順序の一例、多色塗り、ハイライト、ローライト、カバーホワイト ベースメイクのアクセントカラー・パウダリング
6	8. アイメイクアップ 9. アイブローメイクアップ 10. リップメイクアップ 11. ブラッシュオンメイクアップ 12. まつ毛エクステンション	アイライン、アイシャドー、カラーアイシャドー、パウダーアイシャドー、アイラッシュカール、マスカラ つけまつ毛のテクニック・眉の整え方、ドローイング、シェーディング ・リップの丸みのある描き方、鋭角的な描き方、ブラッシュオンメイクアップ ・まつ毛エクステンションにおける衛生及び保健、道具の一例・カウンセリング、注意事項、施術の一例
7	総まとめ	テストを実施する 8 章～10 章の国家試験出題傾向の高いものを重点的に出題
8	≪ 11 章 日本髪 ≫ 1. 日本髪の由来 2. 日本髪の各部の名称 3. 日本髪の種類と特徴 4. 日本髪と調和	・日本髪の由来・日本髪の各部の名称・日本髪の種類と特徴・日本髪と調和
9	5. 日本髪の装飾品 6. 日本髪の結髪道具 7. 日本髪の結髪技術 8. 日本髪の手入れ 9. かつら	・日本髪の装飾品・日本髪の結髪道具・日本髪の結髪技術 ・日本髪の手入れ・かつら（かぶせ方、飾り方、付け方、簪の位置、外し方、持ち方、しまい方、手入れ）

10	≪ 12 章 着付けの理論と技術 ≫ 1. 着付けの目的 2. 礼装 3. 着物と季節 4. 着物のいろいろ 5. 帯 6. 小物 7. 着物各部の名称 8. 着物のたたみ方	・着付けの目的・女子礼装、男子礼装、礼装生地、準礼装、心得・着物と季節・着物のいろいろ・帯・小物の種類・着物の各部の名称・着物のたたみ方
11	9. 着付けの一般的要領 10. 留袖着付け技術 11. 振袖着付け技術 12. 帯締め、帯揚げの結び方 13. 男子礼装羽織、袴着付け技術	・体型補正、長襦袢の着付け・着物の着付け、帯結び・帯締めの結び方の一例、帯揚げの結び方の一例、男子礼装羽織、袴着付け技術
12	14. 羽織のひもの結び方 15. 女子袴着付け技術 16. 婚礼着付けの際の注意事項 17. 和装花嫁 18. 洋装花嫁(ウエディングドレスの知識)	・羽織のひもの結び方・女子袴着付け技術・美容師自身の身だしなみ、不測の事態に備える、緊張をほぐすための細かい配慮、花嫁の動作に注意する、機敏な動作・和装花嫁・洋装花嫁
13	まとめ	テストを実施する 11 章～12 章の国家試験出題傾向の高いものを重点的に出題
14	解説	テストの振り返り・解説
15	美容技術理論Ⅱ 総まとめ	美容技術理論Ⅱ 総まとめを行う

シラバス					
科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	基礎理論Ⅱ		
必修選択	必修	(学則表記)	基礎理論Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	1 年	学科	美容研究科	2	30
使用教材	美容技術理論 1 美容技術理論 2		出版社	公益財団法人 理容師美容師試験研修センター	
科目の基礎情報②					
授業のねらい	美容師国家試験筆記試験課題の「美容技術理論」の正しい知識を身につける。				
到達目標	美容師国家試験筆記試験合格基準を目指す。				
評価基準	テスト 30% 小テスト 20% 提出物 20% 授業態度 30%				
認定条件	出席が総時間数の 3 分 2 以上ある者 成績評価が 2 以上の者				
関連資格	美容師国家試験				
関連科目	美容知識Ⅰ・美容知識Ⅱ・美容知識Ⅲ・美容知識Ⅳ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	山田 順子		実務経験	○	
実務内容	美容室にて美容師として勤務				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開		
回数	単元	内容
1	美容技術理論Ⅰ 序章・1 章	美容技術理論を学ぶにあたって・美容道具 重点項目振り返り
2	美容技術理論Ⅰ 2 章・3 章	シャンプーイング・ヘアデザイン 重点項目振り返り
3	美容技術理論Ⅰ 4 章・5 章	ヘアカッティング・パーマメントウェービング 重点項目振り返り
4	美容技術理論Ⅰ 6 章・7 章	ヘアセッティング・ヘアカラーリング 重点項目振り返り
5	美容技術理論Ⅰ 総まとめ	美容技術理論Ⅰ テストを行う
6	対策	美容技術理論Ⅰ・Ⅱ 重点項目復習

7	まとめ	テストを実施する 美容技術理論Ⅰ・Ⅱ の国家試験出題傾向の高いものを重点的に出題
8	国試過去問演習	美容師国家試験過去問の演習と解説
9	国試過去問演習	美容師国家試験過去問の演習と解説
10	国試過去問演習	美容師国家試験過去問の演習と解説
11	まとめ	美容技術理論Ⅰ・Ⅱ 重点項目復習
12	国試過去問演習	美容師国家試験過去問の演習と解説
13	国試過去問演習	美容師国家試験過去問の演習と解説
14	国試過去問演習	美容師国家試験過去問の演習と解説
15	総まとめ	総まとめを行う

シラバス					
科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	美容知識Ⅰ - Ⅰ		
必修選択	選択	(学則表記)	美容知識Ⅰ - Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	1 年	学科	美容研究科	2	30
使用教材	衛生管理 1 衛生管理 2		出版社	公益財団法人 理容師美容師試験研修センター	
科目の基礎情報②					
授業のねらい	美容師国家試験筆記試験課題の「衛生管理」の正しい知識を身につける。				
到達目標	美容師国家試験筆記試験合格基準を目指す。				
評価基準	テスト 30% 小テスト 20% 提出物 20% 授業態度 30%				
認定条件	出席が総時間数の 3 分 2 以上ある者 成績評価が 2 以上の者				
関連資格	美容師国家試験				
関連科目	美容知識Ⅰ・美容知識Ⅱ・美容知識Ⅲ・美容知識Ⅳ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	河合 静香		実務経験	○	
実務内容	看護師として消化器内科・血液内科等で勤務				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開		
回数	単元	内容
1	オリエンテーション 1 編 公衆衛生 1 章 公衆衛生の概要	美容師免許を所得する上での必要性、取得までの流れ 筆記試験の問題形式・問題数・問題傾向の説明 「公衆衛生の意義と課題」「公衆衛生発展の歴史」「理容師・美容師と公衆衛生」「保健所と理容業・美容業」の復習
2	1 編 公衆衛生 2 章 保健①	「母子保健」「成人・高齢者保健」①の復習
3	1 編 公衆衛生 2 章 保健②	「成人・高齢者保健」②「精神保健」の復習
4	1 編のまとめ 2 編 環境衛生 1 章 環境衛生①	単元テストを実施→振り返り・解説 「環境衛生の概要」「空気環境」の復習

5	2 編 環境衛生 1 章 環境衛生②	「衣服・住居の衛生」「上下水道と廃棄物」の復習
6	2 編 環境衛生 2 章 環境衛生③	「衛生害虫とネズミ」「環境保全」の復習
7	2 編のまとめ 3 編 感染症 1 章 感染症の総論①	単元テストを実施→振り返り・解説 「人と感染症」の復習
8	3 編 感染症 1 章 感染症の総論②	「病原微生物」の復習
9	感染症の総論①のまとめ 3 編 感染症 1 章 感染症の総論③	感染症の総論① 単元テストを実施→振り返り・解説 「感染症の予防」の復習
10	感染症の総論②のまとめ 3 編 感染症 2 章 感染症の各論①	感染症の総論② 単元テストを実施→振り返り・解説 「空気・飛沫を介して感染する感染症」の復習
11	3 編 感染症 2 章 感染症の各論②	「飲食物を介して感染する感染症」の復習 「血液等を介して感染する感染症」の復習
12	3 編 感染症 2 章 感染症の各論③	「動物・節足動物を介して感染する感染症」の復習 「具体的な対策の例」の復習
13	感染症の各論のまとめ 3 編の総まとめ	感染症の各論 単元テストを実施→振り返り・解説 3 編の総まとめを実施する
14	テスト	テストを実施する
15	総合授業	テストを返却→振り返り・解説

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	美容知識Ⅰ・Ⅱ		
必修選択	選択	(学則表記)	美容知識Ⅰ・Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	1 年	学科	美容研究科	2	30
使用教材	衛生管理 1 衛生管理 2		出版社	公益財団法人 理容師美容師試験研修センター	
科目の基礎情報②					
授業のねらい	美容師国家試験筆記試験課題の「衛生管理」の正しい知識を身につける。				
到達目標	美容師国家試験筆記試験合格基準を目指す。				
評価基準	テスト 30% 小テスト 20% 提出物 20% 授業態度 30%				
認定条件	出席が総時間数の 3 分 2 以上ある者 成績評価が 2 以上の者				
関連資格	美容師国家試験				
関連科目	美容知識Ⅰ・美容知識Ⅱ・美容知識Ⅲ・美容知識Ⅳ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	河合 静香		実務経験	○	
実務内容	看護師として消化器内科・血液内科等で勤務				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開		
回数	単元	内容
1	第 4 編 衛生管理技術 1 章 消毒法総論①	「消毒法とは」「消毒の意義」の復習 「理容・美容の業務と消毒との関係」の復習
2	第 4 編 衛生管理技術 1 章 消毒法総論② 消毒法総論まとめ	「消毒法と適用上の注意」の復習 単元テストを実施→振り返り・解説
3	第 4 編 衛生管理技術 2 章 消毒法各論①	「理学的消毒法・化学的消毒法」の復習 「すぐれた消毒法と実施上の注意」の復習
4	第 4 編 衛生管理技術 2 章 消毒法各論② 消毒法各論まとめ	「理学的消毒法・化学的消毒法の消毒方法」の復習 「すぐれた消毒法と実施上の注意」の復習 単元テストを実施→振り返り・解説
5	第 4 編 衛生管理技術 3 章 消毒法実習①	「各種消毒薬」(消毒液の概要、器具の使い方、常備しておくとい消毒薬と希釈液の濃度、消毒薬希釈液法)の復習

6	第 4 編 衛生管理技術 3 章 消毒法実習②	「理容所・美容所の消毒の実際」①（理容所・美容所における消毒の原則、消毒設備、器具類の消毒法、理容師・美容師の手指の消毒） 「理美容所の清潔法の実際」②（清潔保持と清掃、洗剤による清浄法、洗い場の構造と清潔保持、清掃、刈り取った毛の処理、ふた付き汚物箱などの消毒、ハエやカなどの駆除）
7	消毒法実習まとめ 第 5 編 衛生管理の実践例 1 章 衛生管理要領①	単元テストを実施→振り返り・解説 第 1 目的～第 4 衛生的取り扱い等①
8	第 5 編 衛生管理の実践例 1 章衛生管理要領②	第 1 目的～第 4 衛生的取り扱い等② 第 5 消毒～第 6 自主的管理体制
9	衛生管理の実践例まとめ 4 編の総まとめ	単元テストを実施→振り返り・解説 まとめを実施する。振り返り・解説
10	テスト	テストを実施する
11	国試過去問演習①	テストを返却→振り返り・解説 美容師国家試験過去問の演習と解説
12	国試過去問演習②	美容師国家試験過去問の演習と解説
13	国試過去問演習③	美容師国家試験過去問の演習と解説
14	国試過去問演習④	美容師国家試験過去問の演習と解説
15	総合授業	総まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	美容知識Ⅱ - Ⅰ		
必修選択	選択	(学則表記)	美容知識Ⅱ - Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	1 年	学科	美容研究科	2	30
使用教材	保健 1 保健 2		出版社	公益財団法人 理容師美容師試験研修センター	
科目の基礎情報②					
授業のねらい	美容師国家試験筆記試験課題のうち、保健領域（2 編皮膚科学）に関する正しい知識を身につける。				
到達目標	美容師国家試験筆記試験合格基準に到達する知識力の修得を目指す。				
評価基準	テスト 30% 小テスト 20% 提出物 20% 授業態度 30%				
認定条件	出席が総時間数の 3 分 2 以上ある者 成績評価が 2 以上の者				
関連資格	美容師国家試験				
関連科目	基礎理論・美容知識Ⅰ・美容知識Ⅲ・美容知識Ⅳ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	直井 徳子		実務経験	○	
実務内容	看護師として勤務				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開		
回数	単元	内容
1	第 1 章 皮膚の構造	1～2 項 皮膚の表面・断面
2	第 1 章 皮膚の構造	3～7 項 表皮・真皮・皮下組織、皮膚の部位差並びに人種差
3	第 1 章 皮膚の構造	皮膚の構造 重要ポイント解説、単元テストと 4 択問題
4	第 2 章 皮膚付属器官の構造	1 項 毛
5	第 2 章 皮膚付属器官の構造	2～4 項 脂腺、汗腺、爪
6	第 2 章 皮膚付属器官の構造	皮膚付属器官の構造 重要ポイント解説、単元テストと 4 択問題

7	第3章 皮膚の循環系と神経系	1～3 項 皮膚の血管、リンパ管、神経
8	第4章 皮膚と付属器官の生理機能	1～6 項 対外保護、体温調節、知覚作用、反射、分泌排泄、呼吸、吸収作用
9	第4章 皮膚と付属器官の生理機能	7～11 項 貯蔵、免疫・解毒・排除、再生作用、毛と爪のはたらき
10	第4章 皮膚と付属器官の生理機能	皮膚と付属器官の生理機能 重要ポイント解説、単元テストと4 択問題
11	皮膚科学 第5章 皮膚と付属器官の保健	1～11 項 皮膚と全身状態、精神、栄養、嗜好品、体内病変、水分と脂の状態、ホルモン、保護と手入れ、毛、爪の保護と手入れ、スキンケア
12	皮膚科学 第5章 皮膚と付属器官の保健	皮膚と付属器官の保健 重要ポイント解説、単元テストと4 択問題
13	皮膚科学 第6章 皮膚と付属器官の疾患	1～12 項 皮膚の異常とその種類～分泌異常による皮膚疾患
14	皮膚科学 第6章 皮膚と付属器官の疾患	13～19 項 化膿菌による皮膚疾患～皮膚の腫瘍
15	皮膚科学 第6章 皮膚と付属器官の疾患	皮膚と付属器官の疾患 重要ポイント解説、単元テストと4 択問題

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	美容知識Ⅱ - Ⅱ		
必修選択	選択	(学則表記)	美容知識Ⅱ - Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	1 年	学科	美容研究科	2	30
使用教材	保健 1 保健 2		出版社	公益財団法人 理容師美容師試験研修センター	
科目の基礎情報②					
授業のねらい	美容師国家試験筆記試験課題のうち、保健領域（2 編皮膚科学）に関する正しい知識を身につける。				
到達目標	美容師国家試験筆記試験合格基準に到達する知識力の修得を目指す。				
評価基準	テスト 30% 小テスト 20% 提出物 20% 授業態度 30%				
認定条件	出席が総時間数の 3 分 2 以上ある者 成績評価が 2 以上の者				
関連資格	美容師国家試験				
関連科目	基礎理論・美容知識Ⅰ・美容知識Ⅲ・美容知識Ⅳ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	直井 徳子		実務経験	○	
実務内容	看護師として勤務				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開		
回数	単元	内容
1	2 編 皮膚科学のまとめ	2 編皮膚科学の復習（各章の振り返り、穴埋め問題や 4 択問題による演習）
2	2 編 皮膚科学のまとめ	2 編皮膚科学の復習（各章の振り返り、穴埋め問題や 4 択問題による演習）
3	1 編 人体の構造および機能 復習	1 編人体の構造および機能の復習（各章の振り返り、穴埋め問題や 4 択問題による演習）
4	1 編 人体の構造および機能 復習	1 編人体の構造および機能の復習（各章の振り返り、穴埋め問題や 4 択問題による演習）
5	国家試験対策	国家試験過去問、全国・校内模試の見直し、グループワーク等による復習
6	国家試験対策	国家試験過去問、全国・校内模試の見直し、グループワーク等による復習

7	国家試験対策	国家試験過去問、全国・校内模試の見直し、グループワーク等による復習
8	国家試験対策	国家試験過去問、全国・校内模試の見直し、グループワーク等による復習
9	国家試験対策	国家試験過去問、全国・校内模試の見直し、グループワーク等による復習
10	国家試験対策	国家試験過去問、全国・校内模試の見直し、グループワーク等による復習
11	国家試験対策	国家試験過去問、全国・校内模試の見直し、グループワーク等による復習
12	国家試験対策	国家試験過去問、全国・校内模試の見直し、グループワーク等による復習
13	国家試験対策	国家試験過去問、全国・校内模試の見直し、グループワーク等による復習
14	国家試験対策	国家試験過去問、全国・校内模試の見直し、グループワーク等による復習
15	国家試験対策	国家試験前重要ポイント復習

シラバス					
科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	美容知識Ⅲ - Ⅰ		
必修選択	選択	(学則表記)	美容知識Ⅲ - Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	1 年	学科	美容研究科	2	30
使用教材	香粧品化学 1 香粧品化学 2			出版社	公益財団法人 理容師美容師試験研修センター
科目の基礎情報②					
授業のねらい	美容師国家試験筆記試験課題の「香粧品化学」の正しい知識を身につける。				
到達目標	美容師国家試験筆記試験合格基準を目指す。				
評価基準	テスト 30% 小テスト 20% 提出物 20% 授業態度 30%				
認定条件	出席が総時間数の 3 分 2 以上ある者 成績評価が 2 以上の者				
関連資格	美容師国家試験				
関連科目	基礎理論・美容知識Ⅰ・美容知識Ⅱ・美容知識Ⅳ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	安藤 智美			実務経験	○
実務内容	学習塾にて講師として勤務（小・中・高対象）				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開		
回数	単元	内容
1	イントロダクション 1 章 香粧品概論	美容師免許を所得する上での必要性 取得までの流れを説明する
2	1 章 香粧品概論	「香粧品とは何か」「薬機法とは何か」「美容師との関係は？」
3	2 章 香粧品原料	「香粧品の対象となる人体各部の性状」「水性原料」「油性原料」の解説と演習
4	2 章 香粧品原料	「油性原料」「界面活性剤」「高分子化合物」の解説と演習
5	2 章 香粧品原料	「色材」「香料」「その他配合成分」「ネイル、まつ毛エクステンション用材料」の解説と演習
6	3 章 基礎香粧品	「皮膚洗浄用香粧品」「化粧水」「クリーム・乳液」「その他の基礎香粧品」「メイクアップ用香粧品」の解説と演習

7	4 章 メイクアップ用化粧品 5 章 頭皮・毛髪用化粧品	「メイクアップ化粧品の種類と剤形」「ベースメイクアップ化粧品」 「ポイントメイクアップ化粧品」の解説と演習 「シャンプー剤」「スタイリング剤」の解説と演習
8	まとめ	まとめを行う
9	5 章 頭皮・毛髪用化粧品	「スタイリング剤」の解説と演習
10	5 章 頭皮・毛髪用化粧品	「パーマ剤」の解説と演習
11	5 章 頭皮・毛髪用化粧品	「ヘアカラー」の解説と演習
12	6 章 芳香製品と特殊化粧品	「芳香・特殊化粧品」「特殊化粧品」の解説と演習
13	6 章 芳香製品と特殊化粧品	「芳香・特殊化粧品」「特殊化粧品」の解説と演習
14	まとめ	まとめを行う
15	解説	振り返り・解説

シラバス					
科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	美容知識Ⅲ - Ⅱ		
必修選択	選択	(学則表記)	美容知識Ⅲ - Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	1 年	学科	美容研究科	2	30
使用教材	香粧品化学 1 香粧品化学 2		出版社	公益財団法人 理容師美容師試験研修センター	
科目の基礎情報②					
授業のねらい	美容師国家試験筆記試験課題の「香粧品化学」の正しい知識を身につける。				
到達目標	美容師国家試験筆記試験合格基準を目指す。				
評価基準	テスト 30％ 小テスト 20％ 提出物 20％ 授業態度 30％				
認定条件	出席が総時間数の 3 分 2 以上ある者 成績評価が 2 以上の者				
関連資格	美容師国家試験				
関連科目	基礎理論・美容知識Ⅰ・美容知識Ⅱ・美容知識Ⅳ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	安藤 智美	実務経験		○	
実務内容	学習塾にて講師として勤務（小・中・高対象）				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開		
回数	単元	内容
1	付録 香粧品化学を理解するための基礎 化学 付録 1～付録 2	「物質の構成」「物質（水）の構成」の解説と演習
2	香粧品化学を理解するための基礎 化学 付録 3～付録 5	「溶液とコロイド」「イオンと水素イオン指数」「物質の変化と化学反応」の解説と演習
3	香粧品化学を理解するための基礎 化学 付録 6～付録 7	「酸化・還元反応」「タンパク質」の解説と演習 化学範囲の復習
4	香粧品化学	「香粧品分野」重点項目の復習と確認

5	香粧品化学	「香粧品分野」重点項目の復習と確認
6	香粧品化学	「香粧品分野」重点項目の復習と確認
7	香粧品化学	「化学分野」重点項目の復習と確認
8	香粧品化学	「化学分野」重点項目の復習と確認
9	香粧品化学	「化学分野」重点項目の復習と確認
10	まとめ	まとめを行う
11	国家試験対策	国家試験過去問の演習と解説
12	国家試験対策	国家試験対応問題の演習と解説
13	国家試験対策	国家試験対応問題の演習と解説
14	国家試験対策	国家試験対応問題の演習と解説
15	国家試験対策	総まとめを行う

シラバス					
科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	美容知識Ⅳ - Ⅰ		
必修選択	選択	(学則表記)	美容知識Ⅳ - Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	1 年	学科	美容研究科	1	15
使用教材	関係法規・制度 1 関係法規・制度 2 (美容)		出版社	公益財団法人 理容師美容師試験研修センター	
科目の基礎情報②					
授業のねらい	美容の業に対する美容師法による規制と、行政による指導監督制度、およびその他の美容の業の関連法規に関する知識の習得を図る。				
到達目標	美容業に関する関係法規・諸制度のみならず、その前提となる法制度や衛生行政の知識を獲得し、美容師国家試験筆記試験「関係法規」の合格基準を満たすことができる				
評価基準	テスト（小テスト等含む）：75％ 授業態度（提出物等含む）：25％				
認定条件	・ 出席が総時間数の 3 分の 2 以上ある者 ・ 成績評価が 2 以上の者				
関連資格	美容師国家試験				
関連科目	基礎理論・美容知識Ⅰ・美容知識Ⅱ・美容知識Ⅲ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	松田 朋彦		実務経験		
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開		
回数	単元	内容
1	イントロダクション 第 1 章・第 2 章の復習	国家試験における関係法規の出題数や傾向の説明 成績・評価の説明 第 1 章・第 2 章の復習
2	第 3 章の復習	第 3 章 1 節～3 節「美容師になるまで」の復習
3	第 3 章の復習	第 3 章 3 節「美容師に求められる義務」～「管理美容師」の復習
4	第 3 章 理容師法・美容師法 第 4 節	美容所の開設に必要な届出・検査
5	第 3 章 理容師法・美容師法 第 4 節	開設者が求められる義務および美容所以外での業務

6	第 3 章 理容師法・美容師法 第 5 節	立入検査と環境衛生監視員
7	まとめ	まとめを行う
8	解説・まとめ	振り返り・解説
9	第 3 章 理容師法・美容師法 第 6 節	違反者に対する行政処分
10	第 3 章 理容師法・美容師法 第 7 節	違反者に対する罰則
11	第 4 章 関連法規	美容業の運営に関する関連法規
12	第 4 章 関連法規	美容業の衛生に関する関連法規
13	第 4 章 関連法規	美容業の消費者保護に関する関連法規
14	まとめ	まとめを行う
15	解説・総まとめ	振り返り・解説

シラバス					
科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	美容知識Ⅳ - Ⅱ		
必修選択	選択	(学則表記)	美容知識Ⅳ - Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	1 年	学科	美容研究科		1 15
使用教材	関係法規・制度 1 関係法規・制度 2 (美容)			出版社	公益財団法人 理容師美容師試験研修センター
科目の基礎情報②					
授業のねらい	美容の業に対する美容師法による規制と、行政による指導監督制度、およびその他の美容の業の関連法規に関する知識の習得を図る。				
到達目標	美容業に関する関係法規・諸制度のみならず、その前提となる法制度や衛生行政の知識を獲得し、美容師国家試験筆記試験「関係法規」の合格基準を満たすことができる				
評価基準	テスト (小テスト等含む) : 75% 授業態度 (提出物等含む) : 25%				
認定条件	・ 出席が総時間数の 3 分の 2 以上ある者 ・ 成績評価が 2 以上の者				
関連資格	美容師国家試験				
関連科目	基礎理論・美容知識Ⅰ・美容知識Ⅱ・美容知識Ⅲ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	松田 朋彦			実務経験	
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開		
回数	単元	内容
1	第 1 章 第 2 章の復習	ワークブックを用いて問題演習
2	第 3 章の復習 (1)	ワークブックを用いて問題演習
3	第 3 章の復習 (2)	ワークブックを用いて問題演習
4	第 3 章の復習 (3)・第 4 章の復習 (1)	ワークブックや国家試験を用いて問題演習
5	第 4 章の復習 (2)	ワークブックや国家試験を用いて問題演習

6	まとめ	まとめを行う
7	解説・まとめ	振り返り・解説
8	総復習（1）	国家試験過去問演習等
9	総復習（2）	国家試験過去問演習等
10	総復習（3）	国家試験過去問演習等
11	総復習（4）	国家試験過去問演習等
12	総復習（5）	国家試験過去問演習等
13	まとめ	まとめを行う
14	解説・まとめ	振り返り・解説
15	総まとめ	総まとめを行う

シラバス					
科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	コンテストヘアⅠ		
必修選択	選択	(学則表記)	コンテストヘアⅠ		
開講				単位数	時間数
年次	1 年	学科	美容研究科	1	30
使用教材	美容技術理論Ⅰ		出版社	教育センター	
科目の基礎情報②					
授業のねらい	・美容の楽しさ、奥深さを学ぶ				
到達目標	・ヘアアレンジの基礎を身に付ける				
評価基準	テスト 40% 提出物 30% 授業態度 30%				
認定条件	・出席が総時間数の 3 分の 2 以上ある者 ・成績評価が 2 以上の者				
関連資格	美容師国家資格（実技）				
関連科目	美容技術理論Ⅰ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	高橋 綾香		実務経験	○	
実務内容	ヘアメイク事務所にて勤務。ブライダルヘアメイク、スチール撮影、ドレスショー、ムービー撮影等ヘアメイク全般				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開		
回数	単元	内容
1	アレンジ基礎	自己紹介 道具の確認
2	アレンジ基礎	ウィッグを使った基礎 ピニング
3	アレンジ基礎	アイロン 編み込み
4	アレンジ基礎	アイロン 編み込み
5	アレンジ基礎	アイロン 編み込み
6	アレンジ基礎	アイロン 編み込み

7	テスト	ウィッグを使った基礎スタイル
8	テスト予備日	ウィッグを使った基礎スタイル
9	アレンジ応用	ウィッグを使ったパーティーセット
10	アレンジ応用	ウィッグを使ったパーティーセット
11	アレンジ応用	ウィッグを使ったパーティーセット
12	アレンジ応用	人頭でのパーティーセット
13	アレンジ応用	人頭でのパーティーセット
14	アレンジ応用	人頭でのパーティーセット
15	テスト	人頭でのパーティーセット

シラバス					
科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	コンテストヘアⅡ		
必修選択	選択	(学則表記)	コンテストヘアⅡ		
開講				単位数	時間数
年次	1 年	学科	美容研究科	1	30
使用教材	美容技術理論Ⅰ		出版社	教育センター	
科目の基礎情報②					
授業のねらい	・美容の楽しさ、奥深さを学ぶ				
到達目標	・ヘアアレンジの基礎を身に付ける				
評価基準	テスト 40% 提出物 30% 授業態度 30%				
認定条件	・出席が総時間数の 3 分の 2 以上ある者 ・成績評価が 2 以上の者				
関連資格	美容師国家資格（実技）				
関連科目	美容技術理論Ⅰ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	高橋 綾香		実務経験	○	
実務内容	ヘアメイク事務所にて勤務。ブライダルヘアメイク、スチール撮影、ドレスショー、ムービー撮影等ヘアメイク全般				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開		
回数	単元	内容
1	テスト予備日	ウィッグを使ったクリエイティブスタイル
2	アレンジ応用	ウィッグを使ったクリエイティブスタイル
3	アレンジ応用	ウィッグを使ったクリエイティブスタイル
4	アレンジ応用	ウィッグを使ったクリエイティブスタイル
5	テスト	ウィッグを使ったクリエイティブスタイル
6	テスト予備日	ウィッグを使ったクリエイティブスタイル

7	アレンジ応用	人頭を使ったクリエイティブスタイル
8	アレンジ応用	人頭を使ったクリエイティブスタイル
9	アレンジ応用	人頭を使ったクリエイティブスタイル
10	アレンジ応用	人頭を使ったクリエイティブスタイル
11	アレンジ応用	人頭を使ったクリエイティブスタイル
12	テスト	人頭を使ったクリエイティブ撮影
13	テスト予備日	人頭を使ったクリエイティブ撮影
14	人頭でのトータル制作	人頭を使ったトータルヘアメイク
15	人頭でのトータル制作	人頭を使ったトータルヘアメイク

シラバス					
科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	コンテストメイクⅠ		
必修選択	選択	(学則表記)	コンテストメイクⅠ		
開講				単位数	時間数
年次	1 年	学科	美容研究科	1	30
使用教材	メイク道具一式		出版社		
科目の基礎情報②					
授業のねらい	メイクの技術を身につけ、メイクアップの楽しさを知る				
到達目標	前期；フォトコンやコンテストに向けて練習を重ね、コンテストに出場する 後期；様々なメイク技術を学び、卒業制作に取り組む				
評価基準	メイク単元1 0 0 %（実技テスト5 0 %、提出物2 5 %、授業態度等2 5 %）				
認定条件	出席が総時間数の3分2 以上ある者 成績評価が2 以上の者				
関連資格					
関連科目					
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	高橋 綾香		実務経験	○	
実務内容	ヘアメイク事務所にて勤務。スチール撮影、ムービー撮影、ブライダルヘアメイク、ショーメイク等				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開		
回数	単元	内容
1	オリエンテーション	自己紹介、授業の目的・目標説明、授業ルール、メイク道具を知る
2	素材・質感	メイク道具の素材・質感の違いを学ぶ
3	テクニック	様々なテクニックを学ぶ、コンテストに向けて
4	フォトコンメイク対策①	フォトコンに向けて、デザイン考案
5	フォトコンメイク対策②	フォトコンに向けて、フルメイク
6	フォトコンメイク対策③	フォトコンに向けて、フルメイク

7	フォトコンメイク対策④	フォトコンに向けて、フルメイク・ヘアデザイン
8	フォトコンメイク対策⑤	フォトコンに向けて、フルメイク・ヘアデザイン
9	フォトコンメイク対策⑥	フォトコンに向けて、フルメイク・ヘアデザイン
10	フォトコンメイク対策⑦	フォトコン撮影に向けて、トータルバランスチェック・デザイン完成
11	フォトコンメイク対策⑧	フォトコン撮影に向けて、トータルバランスチェック・デザイン完成
12	キャラクターメイク	フォトコン撮影
13	キャラクターメイク	フォトコン撮影
14	フォトコン振り返り	フォトコンの振り返り
15	総合授業	まとめを行なう

シラバス					
科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	コンテストメイクⅡ		
必修選択	選択	(学則表記)	コンテストメイクⅡ		
開講				単位数	時間数
年次	1 年	学科	美容研究科	1	30
使用教材	メイク道具一式		出版社		
科目の基礎情報②					
授業のねらい	メイクの技術を身につけ、メイクアップの楽しさを知る				
到達目標	前期；フォトコンやコンテストに向けて練習を重ね、コンテストに出場する 後期；様々なメイク技術を学び、卒業制作に取り組む				
評価基準	メイク単元1 0 0 %（実技テスト5 0 %、提出物2 5 %、授業態度等2 5 %）				
認定条件	出席が総時間数の3分2 以上ある者 成績評価が2 以上の者				
関連資格					
関連科目					
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	高橋 綾香		実務経験	○	
実務内容	ヘアメイク事務所にて勤務。スチール撮影、ムービー撮影、ブライダルヘアメイク、ショーメイク等				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開		
回数	単元	内容
1	メイク技術の向上	後期の授業目標に向けて、様々なメイク技術を知る
2	メイク技術の向上	後期の授業目標に向けて、様々なメイク技術を知る
3	卒業制作	作品のデザイン考案・デッサンにおこす
4	卒業制作	デザインを基にフルメイク
5	卒業制作	デザインを基にフルメイク
6	卒業制作	卒業制作 フルメイク・ヘアデザイン①

7	卒業制作	卒業制作 フルメイク・ヘアデザイン②
8	卒業制作	卒業制作 フルメイク・ヘアデザイン③
9	卒業制作	卒業制作 フルメイク・ヘアデザイン④
10	卒業制作	卒業制作 撮影に向けて、トータルデザインチェック、フルメイク・ヘアデザイン
11	卒業制作	卒業制作 撮影に向けて、トータルデザインチェック、フルメイク・ヘアデザイン
12	卒業制作	卒業制作 撮影①
13	卒業制作	卒業制作 撮影②
14	卒業制作振り返り	卒業制作の振り返り
15	総合授業	まとめを行う

シラバス					
科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	美容総合テクニックⅠ		
必修選択	選択	(学則表記)	美容総合テクニックⅠ		
開講				単位数	時間数
年次	1 年	学科	美容研究科	1	30
使用教材	美容技術理論Ⅰ			出版社	公益社団法人 日本理容美容教育センター
科目の基礎情報②					
授業のねらい	カット・パーマ・カラー・シャンプーの基本技術・理論を理解し、習得させる。				
到達目標	サロンで応用が出来るように、プロアクティブの授業を通して基礎理論・技術を習得する。				
評価基準	テスト３０％ 小テスト２０％ 提出物２０％ 授業態度３０％				
認定条件	・出席が総時間数の３分の２以上ある者 ・成績評価が２以上の者				
関連資格	美容師国家試験				
関連科目	美容技術理論Ⅰ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	鶴本 純子			実務経験	○
実務内容	美容室で美容師として勤務				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開		
回数	単元	内容
1	サイドシャンプー＆マッサージ①	サイドシャンプーとバックシャンプーの違いを理解し、技術＆マッサージを習得する。
2	サイドシャンプー＆マッサージ②	サイドシャンプー～マッサージー連の流れを習得する。
3	バックシャンプー＆ヘッドスパ①	バックシャンプーの技術＆ヘッドスパを習得する。
4	バックシャンプー＆ヘッドスパ②	バックシャンプー～ヘッドスパー連の流れを習得する。
5	カットについて理解する	シザーの扱い方・姿勢・ブロッキング・基礎理論・ベーシックな技法の理解をする。
6	ワンレングスカット	ワンレングススタイルの基本中の基本であるプラントカットを理解し、習得する。

7	グラデーションカット	グラデーションの意味を理解し、カット技法を習得する。
8	レイヤーカット	レイヤーカットの知識を身に付け、カット技法を習得する。
9	セიმレングスカット	オンベースを理解・意識し、セიმレングスタイルを作り上げる。
10	メンズカット	上記スタイルを取り入れメンズスタイルを作り上げる。
11	パーマ①	パーマスタイル&巻き方の種類を知り、習得する。
12	パーマ②	薬剤を使用し、巻き方による違いを理解する。
13	カラー①	カラーの種類・デザインを知り、習得する。
14	カラー②	薬剤を使用し、塗布や発色の違いを理解する。
15	総まとめ	総まとめ（学んだ知識・技術を活かし、1スタイルの完成）

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	美容総合テクニックⅡ		
必修選択	選択	(学則表記)	美容総合テクニックⅡ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	美容研究科	1	30
使用教材	美容技術理論Ⅰ		出版社	公益社団法人 日本理容美容教育センター	

科目の基礎情報②

授業のねらい	カット・パーマ・カラー・シャンプーの基本技術・理論を理解し、習得させる。		
到達目標	サロンで応用が出来るように、プロアクティブの授業を通して基礎理論・技術を習得する。		
評価基準	テスト３０％ 小テスト２０％ 提出物２０％ 授業態度３０％		
認定条件	・ 出席が総時間数の３分の２以上ある者 ・ 成績評価が２以上の者		
関連資格	美容師国家試験		
関連科目	美容技術理論Ⅰ		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員	鶴本 純子	実務経験	○
実務内容	美容室で美容師として勤務		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	国家試験第1課題・第2課題	国家試験第1課題・第2課題・美容師国家試験衛生
2	国家試験第1課題・第2課題	国家試験第1課題・第2課題・美容師国家試験衛生
3	国家試験第1課題・第2課題	国家試験第1課題・第2課題・美容師国家試験衛生
4	国家試験第1課題・第2課題	国家試験第1課題・第2課題・美容師国家試験衛生
5	国家試験第1課題・第2課題	国家試験第1課題・第2課題・美容師国家試験衛生
6	国家試験第1課題・第2課題	国家試験第1課題・第2課題・美容師国家試験衛生

7	国家試験第1課題・第2課題	国家試験第1課題・第2課題・美容師国家試験衛生
8	国家試験第1課題・第2課題	国家試験第1課題・第2課題・美容師国家試験衛生 テストを実施する
9	国家試験第1課題・第2課題	国家試験第1課題・第2課題・美容師国家試験衛生
10	国家試験第1課題・第2課題	国家試験第1課題・第2課題・美容師国家試験衛生
11	国家試験第1課題・第2課題	国家試験第1課題・第2課題・美容師国家試験衛生
12	国家試験第1課題・第2課題	国家試験第1課題・第2課題・美容師国家試験衛生
13	国家試験第1課題・第2課題	国家試験第1課題・第2課題・美容師国家試験衛生
14	国家試験第1課題・第2課題	国家試験第1課題・第2課題・美容師国家試験衛生
15	国家試験第1課題・第2課題	国家試験第1課題・第2課題・美容師国家試験衛生 テストを実施する

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	プロアクティブ I		
必修選択	選択	(学則表記)	プロアクティブ I		
開講				単位数	時間数
年次	1 年	学科	美容研究科	2	60
使用教材	ABE textbook Eyelash extensions ・まつ毛エクステ教材一式 まつ毛パーマプリント・アイブロウプリント 改正美容師実技試験課題衛生と技術の解説・ 国家試験教材一式			出版社	公益社団法人 日本理容美容教育センター

科目の基礎情報②

授業のねらい	まつ毛エクステンションの技術習得はもちろん使用する用具の取扱い、安全に施術を行えるようそれぞれの種類や特徴、使い方や管理方法を正しく理解し資格取得を目指す。 また まつ毛パーマ、アイブロウの種類や特徴を理解し技術習得を目指す		
到達目標	ABE まつ毛エクステンション検定 100%全員合格 美容師国家試験 100%全員合格		
評価基準	テスト 40% 提出物 30% 授業態度 30%		
認定条件	出席が総時間数の 3 分 2 以上ある者 成績評価が 2 以上の者		
関連資格	ABE まつ毛エクステンション検定 美容師国家試験		
関連科目	美容技術理論ⅠⅡ		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員	奈良 理映	実務経験	○
実務内容	美容室で美容師として勤務		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	筆記 第 1 章 実技 ツイザーの持ち方	筆記・・・第 1 章まつ毛エクステンション概論 実技・・・ツイザーの正しい持ち方と J カール装着
2	筆記 第 2 章 実技 ツイザーの使い方	筆記・・・第 2 章まつ毛エクステンションの用具 (1 備品) 実技・・・ツイザーの正しい使い方と J カール装着
3	筆記 第 2 章 実技 ツイザーの使い方	筆記・・・第 2 章まつ毛エクステンションの用具 (2 道具) 実技・・・まつ毛の書き分け方と J カール装着
4	筆記 第 2 章 実技 ツイザーの使い方	筆記・・・第 2 章まつ毛エクステンションの用具 (3 用剤) 実技・・・まつ毛の書き分けと装着タイムトライアル

5	筆記 第 2 章 実技 プロアアーの使い方	筆記・・・第 2 章まつ毛エクステンションの用具（4 材料） 実技・・・テーブルセッティング
6	筆記 第 3 章 実技	筆記・・・第 3 章衛生管理 実技・・・J カールの装着タイムトライアル
7	筆記 第 4 章 実技	筆記・・・第 4 章保健（眼に関する知識） 実技・・・J カールの装着タイムトライアル
8	筆記 第 4 章 実技	筆記・・・第 4 章保健（皮膚に関する知識） 実技・・・テーピングデモ & 実習と J カールの装着
9	筆記 第 4 章 実技	筆記・・・第 4 章保健（まつ毛に関する知識） 実技・・・テーピングデモ & 実習と J カールの装着
10	筆記 第 5 章 実技	筆記・・・第 5 章カウンセリング 実技・・・テーピングから装着までリムービングデモ & 実習
11	筆記 第 6 章 実技	筆記・・・第 6 章まつ毛エクステンション技術 1 実技・・・トライアル（減点項目を把握）（現時点のレベル把握）
12	筆記 第 6 章 実技	筆記・・・第 6 章まつ毛エクステンション技術 2 実技・・・トライアル（減点項目を把握）（現時点のレベル把握）
13	筆記 確認試験 実技 確認試験	筆記・・・筆記模擬試験① 実技・・・実技模擬試験①
14	筆記 確認試験 実技 確認試験	筆記・・・筆記模擬試験② 実技・・・実技模擬試験②
15	まつ毛エクステンション応用技術 とまとめ	まつ毛エクステンションのカール種類 まつ毛エクステンションのデザイン種類 まつ毛エクステンションのカラー種類

シラバス					
科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	プロアクティブⅡ		
必修選択	選択	(学則表記)	プロアクティブⅡ		
開講				単位数	時間数
年次	1 年	学科	美容研究科	1	45
使用教材	ABE textbook Eyelash extensions ・ まつ毛エクステ教材一式 まつ毛パーマプリント ・ アイブロウプリント 改正美容師実技試験課題衛生と技術の解説 ・ 国家試験教材一式		出版社	公益社団法人 日本理容美容教育センター	
科目の基礎情報②					
授業のねらい	まつ毛エクステンションの技術習得はもちろん使用する用具の取扱い、安全に施術を行えるようそれぞれの種類や特徴、使い方や管理方法を正しく理解し資格取得を目指す。 また まつ毛パーマ、アイブロウの種類や特徴を理解し技術習得を目指す				
到達目標	ABE まつ毛エクステンション検定 100%全員合格 美容師国家試験 100%全員合格				
評価基準	テスト 40% 提出物 30% 授業態度 30%				
認定条件	出席が総時間数の 3 分 2 以上ある者 成績評価が 2 以上の者				
関連資格	ABE まつ毛エクステンション検定 美容師国家試験				
関連科目	美容技術理論ⅠⅡ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	奈良 理映		実務経験	○	
実務内容	美容室で美容師として勤務				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開		
回数	単元	内容
1	まつ毛パーマ各種類理論と技術	まつ毛パーマの 4 種類（まつ毛パーマ・ラッシュリフト・パリジェンヌリフト・アップワードリフト） ロットの種類（S・M・L） カールデザインの種類（ナチュラル・キュート・シャープ）
2	まつ毛パーマ各種類理論と技術	まつ毛パーマの 4 種類（まつ毛パーマ・ラッシュリフト・パリジェンヌリフト・アップワードリフト） ロットの種類（S・M・L） カールデザインの種類（ナチュラル・キュート・シャープ）

3	アイブロウ各種類理論と技術	アイブロウデザイン 5 種類（平行眉・アーチ眉・直線眉・細眉・上がり眉） * 各デザインのワックス→カット→カラー
4	アイブロウ各種類理論と技術	アイブロウデザイン 5 種類（平行眉・アーチ眉・直線眉・細眉・上がり眉） * 各デザインのワックス→カット→カラー
5	アイブロウ各種類理論と技術	アイブロウデザイン 5 種類（平行眉・アーチ眉・直線眉・細眉・上がり眉） * 各デザインのワックス→カット→カラー
6	国家試験第 1 課題・第 2 課題	国家試験第 1 課題・第 2 課題・美容師国家試験衛生
7	国家試験第 1 課題・第 2 課題	国家試験第 1 課題・第 2 課題・美容師国家試験衛生
8	国家試験第 1 課題・第 2 課題	国家試験第 1 課題・第 2 課題・美容師国家試験衛生 テストを実施する
9	国家試験第 1 課題・第 2 課題	国家試験第 1 課題・第 2 課題・美容師国家試験衛生
10	国家試験第 1 課題・第 2 課題	国家試験第 1 課題・第 2 課題・美容師国家試験衛生
11	国家試験第 1 課題・第 2 課題	国家試験第 1 課題・第 2 課題・美容師国家試験衛生
12	国家試験第 1 課題・第 2 課題	国家試験第 1 課題・第 2 課題・美容師国家試験衛生
13	国家試験第 1 課題・第 2 課題	国家試験第 1 課題・第 2 課題・美容師国家試験衛生
14	国家試験第 1 課題・第 2 課題	国家試験第 1 課題・第 2 課題・美容師国家試験衛生
15	国家試験第 1 課題・第 2 課題	国家試験第 1 課題・第 2 課題・美容師国家試験衛生 テストを実施する

シラバス					
科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	就職対策Ⅰ		
必修選択	選択	(学則表記)	就職対策Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	1 年	学科	美容研究科	1	15
使用教材	美容学生のための就活教科書			出版社	株式会社 ADE CREATES
科目の基礎情報②					
授業のねらい	卒業時にはすべての人に感謝の気持ちを持ち愛される存在になっている。また、人間力が構築されて、社会人として自信をもって送り出せる人材育成。				
到達目標	2 年次 国家試験対策前までに全員就職内定 100%				
評価基準	テスト：10% 提出物・課題：50% 授業態度：40%				
認定条件	出席が総時間数の 3 分 2 以上ある者、成績評価が 2 以上の者				
関連資格					
関連科目					
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	鶴本 純子			実務経験	○
実務内容	美容室で美容師として勤務				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開		
回数	単元	内容
1	夢	研究科になって、ここからの目標・学校生活、就職について
2	人間力	人間関係の構築・就職活動（GW の課題）
3	人間力	集団行動の大切さ・就職活動の課題
4	夢	企業研究
5	人間力	プレゼンテーション・グループディスカッション
6	人間力	チームワーク（熱い動画）

7	夢	美容業界リサーチ
8	人間力・夢	就職先リサーチ・ディスカッション
9	人間力	チームワークとやりきる力
10	人間力	チームワークとやりきる力
11	夢	美容業界の知識を深める
12	夢	若手実業家（動画）
13	夢	企業研究・話す力・聴く力、夏休みの課題について
14	夢	課題のプレゼンテーション
15	人間力	前期の振り返り（目標達成度の確認）

シラバス					
科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	就職対策Ⅱ		
必修選択	選択	(学則表記)	就職対策Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	1 年	学科	美容研究科	1	15
使用教材	美容学生のための就活教科書			出版社	株式会社 ADE CREATES
科目の基礎情報②					
授業のねらい	卒業時にはすべての人に感謝の気持ちを持ち愛される存在になっている。また、人間力が構築されて、社会人として自信をもって送り出せる人材育成。				
到達目標	2 年次 国家試験対策前までに全員就職内定 100%				
評価基準	テスト：10% 提出物・課題：50% 授業態度：40%				
認定条件	出席が総時間数の 3 分 2 以上ある者、成績評価が 2 以上の者				
関連資格					
関連科目					
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	鶴本 純子			実務経験	○
実務内容	美容室で美容師として勤務				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開		
回数	単元	内容
1	人間力	オリエンテーション（なりたい自分に向けて） レクレーション
2	人間力	担任の想い
3	夢	一般常識
4	夢	社会人として求められているもの
5	人間力	愛される人材とは
6	人間力	メンタルトレーニング①

7	人間力	メンタルトレーニング②
8	夢	企業研究
9	人間力	感謝の気持ち
10	夢	企業研究
11	夢	CASE スタディ①
12	夢	CASE スタディ②
13	人間力	卒業してからの自分を想像する
14	夢	企業研究の総まとめ
15	夢	1 年間の振り返り

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	実技	科目名	美容ベーシック B		
必修選択	選択	(学則表記)	美容ベーシック B		
開講				単位数	時間数
年次	1 年	学科	美容研究科	3	90
使用教材	ワインディングまたはオールウェーブ教材一式・ カッティング教材一式 衛生教材一式 改正美容師実技試験課題 衛生と技術の解説 三幸学園オリジナル実技マニュアル 美容実習ノート			出版社	公益財団法人 理容師美容師試験研修センター

科目の基礎情報②

授業のねらい	美容師国家試験 実技試験合格に向けた授業 試験時間内に合格基準を満たす技術を習得する		
到達目標	美容師国家試験 第 1 課題・第 2 課題・国家試験衛生合格レベルを習得する		
評価基準	総まとめ 4 0 % まとめ 3 0 % 授業態度 3 0 %		
認定条件	・ 出席が総時間数の 5 分の 4 以上ある者 ・ 成績評価が 2 以上の者		
関連資格	美容師国家資格（実技）		
関連科目	美容技術理論Ⅰ		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員	鶴本 純子	実務経験	○
実務内容	美容室で美容師として勤務		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	国家試験第 1 課題・第 2 課題	国家試験第 1 課題・第 2 課題・美容師国家試験衛生
2	国家試験第 1 課題・第 2 課題	国家試験第 1 課題・第 2 課題・美容師国家試験衛生
3	国家試験第 1 課題・第 2 課題	国家試験第 1 課題・第 2 課題・美容師国家試験衛生
4	国家試験第 1 課題・第 2 課題	国家試験第 1 課題・第 2 課題・美容師国家試験衛生
5	国家試験第 1 課題・第 2 課題	国家試験第 1 課題・第 2 課題・美容師国家試験衛生

6	国家試験第 1 課題・第 2 課題	国家試験第 1 課題・第 2 課題・美容師国家試験衛生
7	国家試験第 1 課題・第 2 課題 まとめ	国家試験第 1 課題・第 2 課題・美容師国家試験衛生 まとめを実施する
8	国家試験第 1 課題・第 2 課題	国家試験第 1 課題・第 2 課題・美容師国家試験衛生
9	国家試験第 1 課題・第 2 課題	国家試験第 1 課題・第 2 課題・美容師国家試験衛生
10	国家試験第 1 課題・第 2 課題	国家試験第 1 課題・第 2 課題・美容師国家試験衛生
11	国家試験第 1 課題・第 2 課題	国家試験第 1 課題・第 2 課題・美容師国家試験衛生
12	国家試験第 1 課題・第 2 課題	国家試験第 1 課題・第 2 課題・美容師国家試験衛生
13	国家試験第 1 課題・第 2 課題	国家試験第 1 課題・第 2 課題・美容師国家試験衛生
14	国家試験第 1 課題・第 2 課題	国家試験第 1 課題・第 2 課題・美容師国家試験衛生
15	国家試験第 1 課題・第 2 課題 総まとめ	国家試験第 1 課題・第 2 課題・美容師国家試験衛生 総まとめを実施する

シラバス					
科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	美容知識Ⅴ		
必修選択	選択	(学則表記)	美容知識Ⅴ		
開講				単位数	時間数
年次	1 年	学科	美容研究科	1	15
使用教材	文化論/運営管理		出版社	社) 日本理容美容教育センター	
科目の基礎情報②					
授業のねらい	美容に関する歴史を習得するとともに、経営の観点でも物事を考えられるように行動する。				
到達目標	得た知識をアウトプット出来るようになるとともに、国家試験合格レベルの知識を身に付ける。				
評価基準	テスト：50％ 小テスト：30％ 授業態度：20％				
認定条件	・ 出席が総時間数の 3 分の 2 以上ある者 ・ 成績評価が 2 以上の者				
関連資格	美容師国家試験				
関連科目	基礎理論・美容知識Ⅰ・美容知識Ⅱ・美容知識Ⅲ・美容知識Ⅳ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	春藤 聡子		実務経験	○	
実務内容	ブライダルジュエリーの販売・デザインアドバイザー				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開		
回数	単元	内容
1	【文化論】 第 1 編 総論	第 1 節 総論について学ぶ
2	第 2 章 日本の理容業・美容業の歴史	第 1～4 節 理容・美容業の発生から各時代の歴史を知る
3	第 3 章 ファッションの文化史 日本編	第 1～5 節 縄文・弥生・古墳・古代・中世・近世のファッションについて理解する
4	第 3 章 ファッションの文化史 日本編	第 6～10 節 近代～現代までのファッションについて理解する
5	第 4 章 ファッション文化史 西洋編	第 1～8 節 古代エジプト・古代ギリシャ、ローマ・古代ゲルマン・中世ヨーロッパ・近世・近代のファッションについて理解する

6	第 4 章 ファッション文化史 西洋編	第 9～16 節 近代～現代までのファッションについて理解する
7	第 5 章 礼装の種類	第 1 節和装の礼装・第 2 節 洋装の礼装、それぞれの種類を知る
8	【運営管理】 第 1 編 経営者の視点	第 1 章 経営・経営者とは何かを理解する
9	第 1 編 経営者の視点	第 2・3 章 理容業・美容業の経営、資金の管理方法を理解・習得する
10	第 2 編 人という資源 従業員としての視点	第 1～2 章 人という資源の重要性と、健康・安全な職場環境を実現するためには何が必要かを考える
11	第 2 編 人という資源 従業員としての視点	第 3 章 従業員としての視点から物事を考える力を身に付ける
12	第 3 編 顧客のために	第 1 章 サービス・デザインの価値を知る
13	第 3 編 顧客のために	第 2 章 理美容業のマーケティングを知る
14	第 3 編 顧客のために	第 3 章 サービスにおける人の役割を知る
15	総まとめ	後期授業内容の習得度の確認